



酪農試験場だより

No. 44

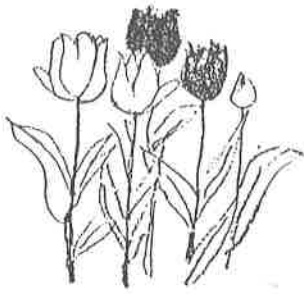


トウモロコシの播種風景

内容紹介

- 1 巻頭言
- 2 サイレージ用添加剤
- 3 平成3年度分析事業のお知らせ!(硝酸態窒素も分析します)

巻 頭 言



酪農試験場の試験研究並びに業務の推進につきましては、格別の御協力をいただき厚く御礼申し上げます。お陰をもちまして自給飼料分析指導事業も軌道にのり、本県酪農の技術水準の向上と相俟って、年々分析点数が増加してきています。

さて、昨今の酪農をとりまく情勢は、この4月に牛肉が輸入自由化になったのをはじめ、自由経済発展の名のもとに内外の圧力は年々強まってきています。

このように厳しい状況の中で、酪農経営を安定的に発展させてゆくためには、先進的技術を取り入れて生産性の向上をはかり、足腰の強い経営体質を構築して、これまで以上に生産コストの低減をはかってゆく必要があります。

そこで、酪農試験場では、よい牛、よいえさ、よい給与を基本に10年後を目標に土地利用型農業における酪農経営のあり方を想定して、それを達成するための技術的問題点について試験研究をすすめています。

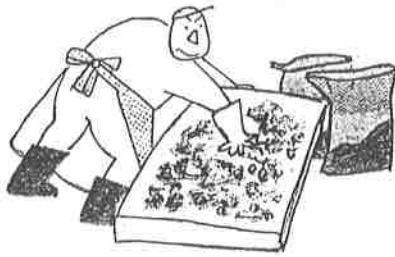
具体的には、飼料作物を8ha作付し、経産牛40頭を飼養して、1200万円の所得を確保する経営を想定して、飼料作物の収量をT DNでha当り15t、経産牛1頭当り8,000kgの乳量を生産する普遍的技術を確立しようとするものです。これを達成するためには表に示したような課題について研究をすすめ、技術を組み立ててゆく必要があります。バイオテクノロジー等新しい研究手法を駆使して問題解決に取り組んでまいりたいと考えています。酪農家および関係者の方々の一層の御指導と御鞭撻をお願いする次第です。

なお、10月下旬には第6回の酪試公開デーの開催を予定していますので、多数御来場下さるようお願い申し上げます。

表 生産コスト低減のための主な研究課題

| | | | |
|--------|------------------------|------------------|-------------------|
| 乳 牛 | 受精卵移植技術による改良の効率化 | 飼 料 作 物 | 乳肉複合生産システムの開発 |
| | 泌乳性、繁殖性向上のための飼養管理技術の確立 | | 超多収品種の育成、選定 |
| | 高泌乳牛の栄養素利用効率の向上 | | 省力的調製、安定貯蔵技術の開発 |
| | 高品質牛乳生産技術の開発 | | 耐暑性、永続性牧草草種の育成、選定 |
| | 牛群の省力管理技術の組立 | | 放牧地の低コスト更新法の確立 |
| | 放牧育成技術の確立 | | 副産物の高付加価値貯蔵技術の開発 |

サイレージ用 添加剤



バイオマックス、スノーラクトL、バイオニア1188…みなさん、もう御存じでしょう。今回は、これらのサイレージ用添加剤を取り上げてみたいと思います。

一口にサイレージ用添加剤といっても、乳酸菌剤、蟻酸、プロピオン酸から糖蜜に至るまでたくさんありますが、今回は乳酸菌剤について酪農試験場での試験結果をふまえてお話しします。

1. 乳酸菌剤の種類

現在20種類近くの製品が市販されており、そのまま使用できる粒状タイプと水に溶かして使用する水和剤タイプがあります。

また 価格は材料10tあたり平均して6,000円前後となっています。

2. 添加方法

材料を少し詰め込む毎に少しづつ散布してやる、あるいはブローワーのポケットやハーベスターの吹き出し口にプラボトル等の容器をセットして、乳酸菌剤を少しづつ落としてやるなど方法はいくつかわかりますが、材料に対してできるだけ均一に添加します。

3. 添加効果について

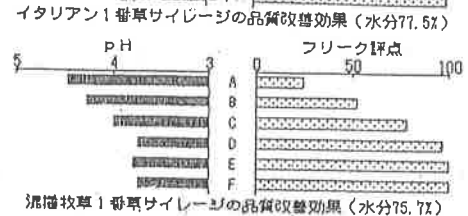
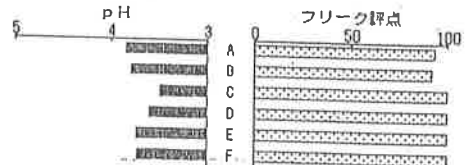
酪農試験場で行った試験結果は次のとおりです。

① イタリアン1番草の場合、糖含量が十分なので高水分条件でも乳酸菌剤なしで良質のサイレージを作ることができました。

② オークチャード主体混播草の場合では、糖含量が中程度で無添加では品質が劣りましたが、乳酸菌剤を添加することで著しく発酵品質が改善されました。

安定した酪農経営は良いエサを安く確保することから始まります。

サイレージ調製の基本を守ることはもちろんですが、添加剤を上手に利用して良いサイレージを作りましょう！



A: 無添加
B: ブドウ糖
C: スノーラクトL
D: スノーラクトL+ブドウ糖
E: バイオマックスS1
F: バイオマックスS1+ブドウ糖

平成3年度分析事業のお知らせ! (硝酸態窒素も分析します)



当場で行っている「自給飼料分析指導事業」も、今年で9年目に入りました。この間、農家のみなさんの信頼を得てTotalで5963点の分析を行い、事業自体も分析草種項目の拡大、給与診断プログラムの開発と活用、モデル農家の設置と効果の展示など年々強化されてきました。しかし、近年の

厳しい酪農情勢のもとではまだまだ本事業も充分とはいええず、さらに充実させていかなければなりません。

そこで、今年度からはみなさんの要望にこたえるべく栄養価(TDN・DCP)分析や官能検査と同時に、希望者に対して硝酸態窒素($\text{NO}_3\text{-N}$)の分析を行うことにしました。日頃から「うちのサイレージは色かかなり黒ずんでいる。牛に食べさせても大丈夫かな?」とか「牛かどうも調子悪い。もしかすると $\text{NO}_3\text{-N}$ のせいかな?」と疑問を持って、おそろおそろ自給飼料を食べさせているみなさん、この機会に分析事業を利用して $\text{NO}_3\text{-N}$ を分析してみたいかですか?

今年度の受付日は下表のとおりですので是非ご利用下さい。

但し、 $\text{NO}_3\text{-N}$ の分析に関しては従来の申請書の他に施肥量などを明記した「分析依頼票」が必要となります。また、 $\text{NO}_3\text{-N}$ 分析は冬作物(イタリアン、イタリアン+麦、混播牧草)サイレージ及び牧乾草に限定させていただきます。詳しくは当場または最寄りの普及所、酪農協の指導員におたずね下さい。

本年度受付日

| 回数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
|-----|------------|------|------|-----|-----|------|------|-------|-------|-------|-----------|-----|------|
| 受付日 | 平3 4/16 | 5/14 | 6/11 | 7/9 | 8/6 | 9/10 | 10/1 | 10/29 | 11/19 | 12/10 | 平4 1/7 | 2/4 | 3/10 |

酪農試験場だより No 44

平成3年5月1日

栃木県酪農試験場

〒329-27西那須野町今本松298

電話 0287-36-0230